

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1291200630	
法人名	株式会社オレンジ	
事業所名	グループホームなかよし	
所在地	〒271-0093 松戸市小山97-8	
自己評価作成日	令和4年1月20日	評価結果市町村受理日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「自宅での暮らしと同じように穏やかに過ごせる家」という理念の下、施設は昭和の佇まいで一軒家となっており、文字通り自宅で暮らしているような気持ちで過ごして頂けるよう、更にご入居者様の意思を第一に支援しております。訪問診療で月2回と、必要時医師に訪問して頂き、本社訪問看護ステーションとも連携を取り、入居者様の体調管理を行っています。口腔ケアに力を入れており、訪問歯科を利用して定期的に口腔内環境や口腔機能の向上も図っております。

※事業所の基本情報は、公運営推進会議を通し、地域の方々に施設に来訪して頂いているが、現在は

基本情報リンク先	<a href="http://hp.kaipoke.biz/hky/info.html">http://hp.kaipoke.biz/hky/info.html</a>
----------	---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

毎月2回の訪問看護医療(同法人訪問看護ステーション)とそれに運動した訪問診療(医療法人碧水会)、月1回の訪問歯科(ラビット歯科)の受診など、本来の介護サービスに加え医療サービスも充実している施設である。処方箋に基づき訪問薬局では患者が確実に服薬できるよう、日別患者別の薬剤BOXにして処方している。施設の運営理念にもあるように、利用者が「自宅での暮らし」に近い生活ができるよう、個人の主体性を尊重する姿勢がうかがえる。昨年から管理会社が変更になったため、まだ不慣れなこともあるが比較的若い管理責任者(理学療法士)が積極的に取り組んでいることに好感が持てる。

【評価機関概要(評価機関) 来年度は新型コロナウ 現在、書面での開催となっております地域包括支援センター

評価機関名	特定非営利活動法人NPO共生
所在地	〒275-0001 千葉県習志野市東習志野3-11-15
訪問調査日	令和4年2月7日

身体拘束に関する職員の少ない夜間だけ玄関を閉めているが、日中は施錠していない。施設長が受講した身体拘束研修のテキストを職員間で回覧している。月1回

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念を玄関に掲示し職員間でも共有している。ご利用者様一人ひとりに沿った支援を行っている。	「自宅での暮らしと同じように」、利用者の自主性を尊重するケアを目指している。施設の集団生活の中でも、個々の利用者の個性をよく把握し尊重するよう努めている。週2回の入浴も個人の意思を優先し、強要しないようにしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	本年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から地域との交流を見合わせているが、新型コロナウイルスの終息し安全が確保されたと判断できれば以前のように交流を図りたい。	コロナ禍の影響を受け、従来の地元住人等との交流が制限される中、民生委員は毎月訪問してくれている。定期的に回ってくる地域のごみ箱清掃当番は、今後当職員と一緒に利用者も作業できるようにしていきたい。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を通し、地域の方々に施設に訪訪して頂いているが、現在は新型コロナウイルス感染症対策として書面にてご報告させて頂いている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	来年度は新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から書面にて開催、頂いたご意見をサービスに活かしていきたい。	現在、書面での開催となっており地域包括支援センター職員・利用者家族・後見人には郵送にて、民生委員には手渡して回覧している。書面には施設内での生活の様子をとった写真を添えて、内容が伝わりやすよう工夫している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	高齢者福祉課、地域包括支援センター、生活支援課と連絡を取り空室状況などを伝え協力関係を維持。実際に入所へと結びついた例もあり。	生活支援課からの高齢生活困窮者受け入れ要望に協力している。加えて、利用者の健康管理の為、市が費用負担する医療券申請をこまめに行うなど、行政との協力関係を大切にしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関する研修をグループホーム内で実施している。身体拘束について正しく理解を深め、周知徹底するよう努めている。	職員の少ない夜間だけ玄関を閉めているが、日中は施錠していない。責任者が受講した身体拘束研修のテキストを職員間で回覧している。月1回開催の全体会議ではヒヤリハットの事例紹介など全員に共有している他、機会毎各職員に一人ひとり面談している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待とは何か理解を深めるために研修を実施している。接遇など言葉の面で互いに指摘し合える関係を築く努力をしている。身体的には特に入浴時など全身状態の観察・異常の早期発見、報告に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見を利用しているご入居者様もいらっしゃるのので、必要時は情報を頂き参考にしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時や改定時には、ご家族様に丁寧にご説明し、ご理解、ご納得頂くようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご入居者様への声掛けを大切に、個々の思いの把握に努め、ご家族の面会時や、運営推進会議での意見や質問等を、運営に反映できるように心がけている。	コロナ禍もあって、ご家族からの声は最近来ていない。利用者のワクチン接種記録の回収も時間がかかった。一方、施設内調理の食事では、利用者の気遣いもあって「おいしい」と言ってもらえることが多い。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃より職員と話し合いや意見交換の機会を設けより良いケアが提供できるようにつとめている。	施設内でのケアサービスレベルアップの為、介護記録を書類にして蓄積、経験知を職員全員で共有できるようにする。職員の得意な一芸、料理・記録文章力・レクリエーション企画力などを評価活用して職員のモチベーションを高めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	給与、労働時間など本人の要望を考慮し、やりがいをもち働けるよう職場環境改善、条件の整備につとめている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	スタッフの介護方法や利用者との接し方でよりよい方法ないかお互い考え、アドバイスを伝え合い、その内容は他のスタッフにも周知して、研修の機会も設けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域包括支援センター主催のケア会議や推進会議等に参加し交流の機会を設けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	常にご入居者様へ声掛けや見守りを行いながら、不安や困っている事、思いに早期に対応できるように努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に家族から情報の聞き取り、情報提供元からの情報を基にサービスへの要望を把握し、信頼関係が築けるように取り組んでいる。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご入居者様、ご家族のご要望を聞き取り、必要な支援のサービスを検討し対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	会話をしながら、家事作業も共に行なうことで役割を持っていただき、互いに感謝したりすることでよい関係せいが築けるよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご入居者様の近況や希望する物品などの情報提供をしている。病院受診など必要時はご家族にご協力頂いている。コロナ禍で面会は工夫して行っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、外出を控えており、終息後再開の計画あり。	年賀状・暑中見舞いを出している利用者には、職員が手伝うようにしている。自宅から持ってきたぬいぐるみと寝ている利用者もいる。歴史に興味を持っている利用者は、「日本の歴史」を書き写して利用者間で回覧している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	リビングで過ごして頂いている時間が多いので、常に座席について検討し、トラブル等に配慮しながら支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用終了後も何かあればご相談いただけるよう、お話をさせて頂いている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	会話の中から出来るだけご本人の意向を聞き出し希望に沿える様に務めている。言葉だけでなく表情・行動・仕草からも読み取る努力をしている。	利用者のほとんどが言葉によるコミュニケーション可能であるが、職員は表情や行動、仕草からも利用者の意向を把握して意向に沿えるように支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご入居時に得た生活歴の情報と、その後会話の中で得た情報を職員で共有し、その方らしく生活できるような支援を心がけている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日バイタルチェックを行い心身状況の変化など日報に記入し、共有している。出来る事はご自身で行っていただいたり、お手伝いして頂いたりしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人様、ご家族様、訪問診療医、訪問看護、訪問歯科医等の意見や助言を取り入れ、普段のご様子から気づいたことを介護計画やモニタリングに反映している。	介護支援専門員の資格を持つ職員が本人及び関わる人々・機関より利用者情報を収集して介護計画を立てている。介護計画は職員に伝えられてプランに沿った支援が行われている。時期が来たらモニタリングを行い計画の見直しを図っている。	担当者制を検討しているとお聞きしましたが、ミーティング等の時間を活用して、職員全体で利用者の介護計画を検討されることを期待します。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子は日報に記録し、気づいたことや注意事項、工夫などはノートに記入しスタッフ間で共有している。それらをケアプランの作成に役立てている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その都度ご入居者様の状況に合った柔軟な対応をする様に務めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ご入居前から利用されているボランティアの方の訪問を継続したり、近隣のイベントへの参加を行っている。(コロナ禍で現在は参加していない)		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	毎月2回の訪問診療、緊急時の対応も24時間体制である。必要な方には他科受診も可能である(基本家族同行)	契約クリニックから毎月2回の訪問診療があり、訪問看護は同法人の訪問看護ステーションから訪問がある。それらは24時間の対応がある。また、月1回の訪問歯科や薬局の支援があり利用者の健康管理を行っている。他科受診に際しては家族と協力して受診支援を行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師による体調確認を行っている。訪問時やそれ以外のときも、体調の変化などあれば随時相談している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際は状況提供を行い、病院と情報交換を正確に行いながら、ご入居者が安心してグループホームに戻れるように支援している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居契約の際、重度化指針や看取り指針についてご説明し、ご理解頂きご意向確認書を頂いている。	ホームは希望者に看取り支援を行っている。入居時には説明していないが、看取り時期が近くなると医師から家族に説明を行い、利用者及び家族の意向を確認して意向に沿ったケアの方針で支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ご入居者様の急変や事故発生時には、緊急連絡の優先順位に従い、家族や主治医、看護師との連携により適切な対処ができています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の協力のもと通報訓練、避難訓練および消火器の使い方訓練をしている。避難は基本的には施設内で待機し、必要に応じて避難所への移動を行うことになっている。	ホームの経営が変わったことにより責任者の交代が何度かあり、これまでの避難訓練の記録がホーム内に見当たらなかった。現在の責任者は消防署に相談して避難訓練の実施に向けて計画を立てている他、消防署参加の訓練の前にホーム内で夜間想定訓練を実施したいと考えている。	実際に避難訓練を行う事で課題が見つかると思う。ぜひ、消防署参加及びホーム内で実際に避難訓練を行う事が望ましい。また、備蓄用品を検討して準備されることが望ましい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご入居者様それぞれに合った声がけ、対応をするように心がけています。	一人ひとりに対する介護では、人権を尊重した対応を心掛けている。支援の中で責任者が問題に気づいたときは、その場ですぐに指導している。また、内容によってはミーティングで勉強会を行い意識・知識を高めるようにしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	選択肢の提示など工夫し、希望に添える様に対応する。実施するレクや制作活動など意見を聞きながら選んで頂く様、支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	お部屋で過ごしたいときは見守りを行いながらそのようにして頂いたり、ご本人の希望に沿って支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節に合った清潔な服装で生活して頂けるよう支援させて頂いている。希望者は訪問美容にてカットを行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個々に合わせた食事形態での提供。イベント食も行いいつもと違う雰囲気提供したりしている。調理の下準備や片付け・皿拭きなど利用者様と共に行っている。	食事は、一人だけ大刻み食を準備している他は全員が常食である。9割方はスーパーで買い物ホーム内で調理しているが、配食サービスを週2回活用している。ある食材でその日その日に調理しているので改まったの献立は考えていない。手伝うことが出来る人には皿拭きを頼んでいる。	時には行事食を提供して食事に変化をつけ、楽しめる食事を計画されることに期待します。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	メニュー・接種量・水分量を日報に記録し、栄養のバランス食事の好みに合わせて、メニューや分量を考えている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行い、口腔内の清潔を保持している。訪問歯科との連携により歯科衛生士から口腔衛生管理に関わる助言を受けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	定時のトイレ誘導やお申し出によるトイレ誘導や見守りを行っている。出来る限りトイレでの排泄を促し、夜間はポータブルトイレ対応など個々の状況に合わせて支援している。	全員がトレーニングパンツ使用で日中はトイレの排泄支援を行っている。利用者3人は自分でトイレに行って排泄できている。トイレ排泄ではできるところは自分でしてもらい自立支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事の内容や量、水分摂取量に気を付けて、体操や歩行の機会を設け便秘の予防に取り組んでいる。必要時は医師に相談している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週2回入浴して頂いている。曜日や時間帯はだいたい決まっているが、ご本人のペースで着替え入浴できるよう支援している。	利用者は週2回入浴して清潔を保っている。二人介助が必要な人には職員二人で対応している。入浴できない場合は、清拭や足浴など別の方法で支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝時間や昼寝など個々の習慣に合わせてできる限り対応する。昼寝を希望しない方は職員と共に過ごして頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服時のチェック、状態の観察により主治医との連携を図っている。変化等、記録を行い報告する。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の希望を把握し、やりたいこと、気分転換などができるよう支援している。希望があれば必要な物をご家族にそろえて頂いている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から現在は外出を控えているが、短時間で近所の散歩などは再開している。	コロナ禍でもあり、マスク着用ができないので外出は控えている。しかし、天気の良い日に交通量の少ないホームの周囲を交代で散歩し外気浴を行っている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在入居者様が金銭管理や所持されておらず、ご本人・ご家族様にもご説明し了承を得ている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご希望があれば行えるよう支援して行く。手紙のやり取りをされている入居者様もいらっしゃる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間で快適に過ごして頂けるよう環境整備を心掛けている。季節ごとに装飾を一緒に作り飾ったりして、楽しく季節感を取り入れている。	民家型のグループホームであり、やや狭い居間であるが、テーブルの配置やソファの配置を工夫して居心地よく過ごせるようにしている。季節ごとに折り紙で装飾を作り飾っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブル席やソファなど居心地の良い場所への移動や気の合う入所者様と楽しく過ごせる空間づくりも心掛けている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家具、テレビなど使い慣れた物、愛着のあるぬいぐるみなどご持参され、快適に過ごされている。	入居者の環境特性により持ち込む私物が少なく、居室はベッド・寝具だけという人もいる。そのような人にはホームにあるものを使ってもらい少しでも居心地よく過ごせるように支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々の能力を考慮し、できる事を無理なく行って頂ける様支援する。安全面には配慮しつつ過度な介助にならない様に努めている。		